



第68号
令和3年8月
発行 NPO法人小野川と佐原の町並みを考える会 佐原町並み保存会
お問い合わせ 佐原町並み交流館
電話 0478(52)1000

景観条例が議会通過

「小野川清掃」でわかった市民のこころ
町並み保存の取り組みに誇りを持って

NPO法人・小野川と佐原の町並みを考える会
理事長 佐藤 健太良

「佐原市歴史的景観条例」が一九九四年（平成六年）三月に市議会をやつと通過した。「やつと」というには理由があった。ある議員がこの条例に強く反対で、可決が危ぶまれていたのだ。私達は議会傍聴に行つた。ついに審議が開始され、ポケットに両手を突っ込み議場を闊歩する初老の議員が熱弁を振るい始めた。「傍聴席に住民がこんなに沢山来のはかつてないこと。これに免じてもう反対はしない」と締めくくつた。（やつと）「佐原市歴史的景観条例」が議会通过した。

私達の最終の望みは、重要伝統的建造物群保存地区（以後、重伝建）に選定されることだった。国の選定を受ければ、全国から沢山の人々が佐原の景観を見に来てくれるし、佐原



「正上」前で挨拶する佐藤理事長

市の補助金負担も軽くなるからだ。どうしても「重要」の「冠」が欲しかったのである。しかし、重伝建地区に指定されるには「八〇パーセント以上の賛成率」が欲しい」と当時の事務所であった旧三菱館の中では常に話されていた。以後、市民の保存意識を高揚させ

私達は説明会や話し合い会をよくやつてはいるが、地域住民を巻き込んだ活動はしてこなかった。他地域では「芋煮会」のような地域の「和」づくりのイベントをやつてはいる

小野川清掃を決定

私達は説明会や話し合い会をよくやつてはいるが、地域住民を巻き込んだ活動はしてこなかった。他地域では「芋煮会」のような地域の「和」づくりのイベントをやつてはいる



清水建設からも多数の応援団

市民から暖かい応援が

一旦川に入つてみると川底はヌルヌルして気持ちが悪い。子供達が楽しく遊んでいた小野川の底がこんなに汚かつたのかと初めて知つた。川底から、ベンチや道路標識、錆びた自転車やオートバイ、工事廃材等が現れた。鉄筋に団子状についている



手慣れた竿さばきで「舟出」

コンクリート塊には困つた。重くて道路まで上げられず、ユニック車を借りてやつと引き上げた。その際、今まで建物保存に反対していた家の奥様から冷たい飲み物の差し入れがあつて、会員一同を感激させた。小野川清掃が市民から支持された瞬間だった。同意書の賛同率が九二パーセントに跳ね上がった。



1964年（昭和39年）東京オリンピックバンタム級金メダリスト桜井孝雄選手の業績を展示中（6.1.~7.7.）。交流館1Fにて。

第十七期「考える会」総会
令和三年五月十九日（水）午後一時から交流館二階で行われた今年度総会は議事案件全てを承認して無事終了。新役員も六月二二日（水）の理事会で承認されました。

重伝建選定を希望する地域の担当者に対して「佐原を見学に行け」と文化庁担当官が口癖にしたという。
今年も恒例の夏の清掃
コロナ禍があつても、今年も恒例の小野川清掃が去る六月二四日（木）に多数の市民のご協力で行われた。私達はこれからも小野川の清掃活動を強い信念をもって続けます。

佐原を見学に行きなさい
この賛同率をもって佐原市は文化庁に書類を提出し、一九九六年（平成八年）一二月、正式に佐原の町並みが重伝建地区に選定された。景観条例制定からたつたの二年で「重要」を勝ち取れたのは「早くて珍しい」と評判になった。

伊能図完成二百年記念シンポジウムが開かれる

「伊能図の魅力」を科学する」をテーマに

〜新角度から見た伊能図に様々な発見が〜

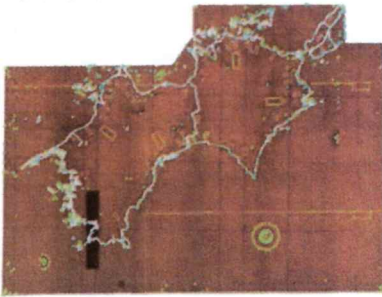
令和三年七月十七日(土)の午後一時半から四時三十分まで、神戸市立博物館講堂とオンラインで結んで、香取市佐原文化会館で伊能図完成二百年記念シンポジウムが開かれ、超高精細画像データや非破壊調査などの最新技術を用いた伊能図の研究が発表されました。パネルディスカッションの後、香取会場だけの講演「伊能図と(長久保)赤水」が追加されました。

宇井成一香取市長が、伊能図完成二百年にあたる意義ある年にシンポジウムが開催される意義を強調、神戸市立博物館館長・大谷幸正氏の挨拶、徳島大学名誉教授の趣旨説明に続いて報告に入りました。

針孔の不思議

神戸会場から「0.2ミリの足跡(伊能図の針孔を数える)」と題して、徳島大学准教授の塚本章宏氏が発表しました。

拡大してみると直径0.2ミリの小さな穴が側線上、山の上まで2ミリ程の間隔で突かれていて、紙の裏側から透過した光で暗闇の中に地図の形が浮かび上がります。写しを取るため



伊能図の裏側から光で透視すると針孔からの通過光が地図の輪郭をくっきりと浮かび上がらせた。

に針孔に沿って側線をフリーハンドでなぞっていくのですが、特別に考案された針で何千という孔を刺したのは、天文方の熟練した者の手による作業だと思われまます。

絵具は調査して作る

次の三つの発表は香取会場から行われました。まず、国立歴史民俗博物館准教授の島津美子氏の「伊能図を彩るさまざまな絵具」の発表では、伊能図に使用された絵具を化学分析した結果、①山岳、河川、海、砂浜などの彩色は、天然染料から作られた有機顔料、②赤い線は、水銀朱、③コンパスローズは、絵図によって無機顔料と胡粉が使用されていたことがわかりました。

コンパスローズ(下の写真)

東大史料編纂所上席技術専門員の村岡ゆかり氏から、コンパスローズの彩色について発表がありました。

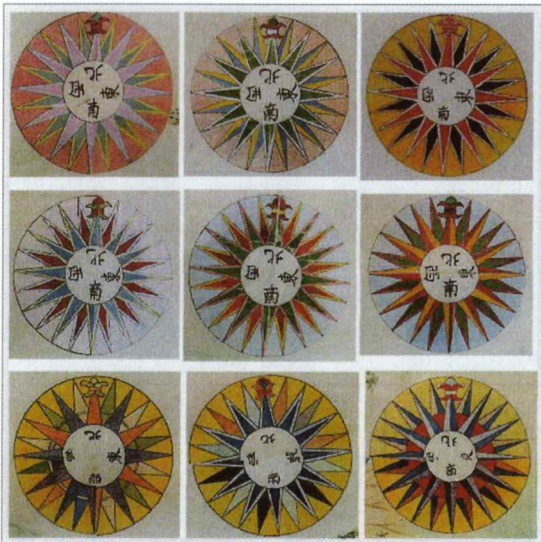
これは伊能図にある特別な「羅針図」の呼称で、東西南北の方位を細かく彩色した三角形で示したものを分割された地図を正確に接合させる

「相紋」にも利用されました。拡大して見ると豊かな彩色で自由な発想で描かれていて、方位も二四〜三六方位まであります。これもまた天文方の熟練した者の作業だったと思われまます。

和紙だけではなかった

文化庁文化財調査官の地主智彦氏から、料紙が示す伊能図の性格と題した発表がありました。

伊能忠敬の地図の制作に適した紙は何か。実は、竹紙(ちくし)とか



パネルディスカッション後の話題の中で、忠敬の個人的な事業の色合いの濃い前期と国家事業の後期とは、地図の描写、針孔等に歴然とした差があるという指摘がありました。

「伊能図と赤水」

神奈川大学特任教授の小野寺淳氏は、水戸藩の学者である長久保赤水について特別講演しました。

赤水は、江戸に在住して水戸藩主の子息たちの教育係を務めながら、

出版されている各種の地図を集合して、日本地図以外に中国地図、世界地図も出版しました。

●●●●●●●●●●

今まで顧みられなかった伊能図を側面から科学的に考察した発表なので大変勉強になりました。

(新井勝治)

「考える会」の主な事業

- 二月八日 緊急事態宣言期間延長 午後五時以降研修室貸出 中止 三月七日まで
- 二五日 第九回案内班会議
- 三月七日 骨董市(第一七一回)
- 九日 午後9時以降研修室貸出 中止延長三月二日まで
- 十五日 理事会
- 二二日 県企画課(オール千葉おもてなし推進事業取材) 午後9時以降研修室貸出 中止 三月二日〜現在
- 二五日 第十回案内班会議
- 二九日・三一日 さわらぼ 骨董市(一二二回)
- 四月四日 県県民文化課(プロジェクトマッピング打合せ)
- 十二日 監査会
- 二二日 第一回案内班会議
- 二七日 JR四季島感謝状授与 校(にて)
- 三十日 理事会
- 五月二日 骨董市(第一七三回)
- 十九日 第十七期絵会
- 二五日 第二回案内班会議
- 二七日 水郷三都絵会
- 六月二日 聖火リレー等の中止連絡
- 六日 骨董市(第一七四回)
- 十日 開かれた学校(佐原高校)
- 二二日 第三回案内班会議
- 二四日 小野川清掃
- 二五日 佐倉市民力レッスン

下分町にあった『天満屋卸店』

現在の徳島屋金物店の店舗の真向いに（現在は駐車場と倉庫がある）江戸時代中期以降は『天満屋』が店を構えていました。野州（栃木県）の出で、代々石川仁兵衛を名乗り、幕末には佐原で屈指の商店として繁盛していました。

佐原の地で、呉服、太物、荒物、茶、紙類、砂糖類、畳表、雑貨等を手広く扱い、良品を大量に仕入れて安価に卸売りして商域を広げていました。行方、鹿島方面、東総、九十九里方面の卸商や小売商が得意先で、使用人も数十人おりました。お得意様が仕入れに来た時には、昼飯を近所の仕出し屋から取り寄せて振る舞い、その数が十から二十にもなったということです。

ある時、五代目仁兵衛義和が仕入れのために江戸へ屈強の仕事師（とび職）一人を連れて、朝早く出かけました。翌々日に漸く江戸に着くという道中でした。

江戸問屋での仕入れを済ませて、富士山参詣でもしようと思いついて八王子街道を進んで行くと、向こうから白木綿の袋に入った荷物を付けた小荷駄三疋に遭いました。仁兵衛さんが馬士（ばし・馬方）に「その付け荷は何か」と聞くと、「コレカイ、これは将棋の駒だ」と過ぎて行ったので、後から来た荷主に「その荷は何処へ行くのか」と聞きました。「これは江戸の何某へ行くのです」と答えたので、「ここで譲って下さい」と言うので、「一駄位では譲られない」と言うので「イヤ全部買う。如何ほどであるか」と代金をその場ですぐに支払って、江戸箱崎町の佐原屋庄兵衛へと送らせて、自分はそのまま富士参りを済ませて佐原へ帰りました。

その年の暮れになって、江戸の将棋問屋が本方（もとかた・製造元）へ将棋駒の注文を出す。「先に出た分はみな下総佐原の天満屋仁兵衛という人に売ってしまい、新規に出来たものはわずかしかない」と言われてしまう始末。そこで「これから正月が来るのに、そんなわずかばかりでは仕方がない」と仁兵衛さんに掛け合いに来ました。仁兵衛さんはなかなか義侠な人でしたから、「商人は相見互いだ、何ほどの口銭をお付け下されば差し上げましょう」とゆずってあげました。これが江戸問屋仲間に「佐原に天満屋仁兵衛あり」と認められた逸話です。（塚原芳久）

千葉県指定文化財 「三菱銀行佐原支店旧本館」 ゆかりの「清水建設千葉支店」が修復工事④ いよいよ大正三年の雄姿がよみがえる

恒久的保存を目指す

樋山裕己さんは熱く語ります。保存修理の目的は、建物の安全性の確保のみでなく、文化財建造物の恒久的保存と、この建物を町並み観光の拠点にすることです。

平成二六年度に耐震診断、平成二七年度から二八年度にかけて補強基本設計、平成二九年度から三〇年度にかけて実施設計及び実施設計作製支援業務、令和元年度から四年度にかけて耐震補強と改修工事を重ねてきました。

重点は耐震工事

耐震診断の結果、地震時の耐力が不足していると診断されたため、PC鋼棒によるプレストレス補強（煉瓦壁内にPC鋼棒を縦に通して煉瓦に圧縮力を加える）と鉄骨補強（煉瓦壁が内外方向に倒れるのを防ぐために、水平の鉄骨トラスで補強）が工事の重点でした。

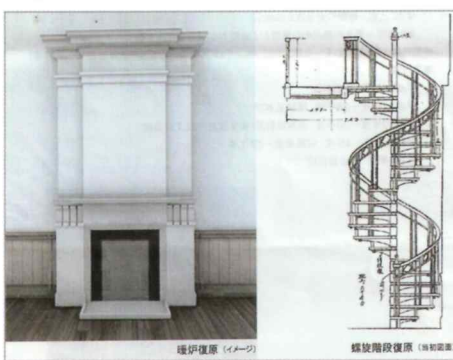
親しみやすい佐原の町

さらに、三年前に佐原に来た頃から、佐原の皆さんが私達と古くからの知り合いのように思えるほど、親

しみやすい仲の良い雰囲気を感じています。特に、佐原三菱館への思いはとても大きいと思います。川崎銀行から三菱銀行へと引き継がれて、長い間地域の皆様に親しまれて来たからだと思います。

令和四年三月に完成

東日本大震災によって被災してし



復元される豪華な暖炉と螺旋階段

まった煉瓦構造体の耐震補強工事という特殊な工事を、当社初の工法を採用して行うのは前例のない難工事でした。着工以前までに二年間、当社の技術研究所で試行錯誤を繰り返して、特許申請までこぎつけた自信とチャレンジ精神でやってきました。三年余の年月をかけてやっと、令和四年三月には修理が完了して、川崎銀行創業当時の姿が蘇ります。

有形文化財申請を

完成後は「国指定の有形文化財」への格上げを視野に入れています。また、この大工事の費用は、国庫補助金や千葉県支出金、合併特例債で賄われることになっています。また、見学は安全を考慮して、今までの道路側からの入口ではなく、交差点内から、通路を通り入館するようになります。

- 七月四日 骨董市（第一七五回）
- 十六日～一八日 本宿祭礼中止
- 二三日～二五日 竹灯り
- 二七日 第四回案内班会議

町並み交流館の展示

- 二月 三日～三月二八日 雛巡り
- ひな人形飾付
- 四月十七日～五月二六日 五月人形めぐり
- 五月十一日 アヤメプランター設置
- 十三日 展示ケース照明器具交換
- 二五日～三十日 盆栽展 日本盆栽協会水郷佐原支部
- 六月 一日～七月七日 オリ・パラ展示 香取市
- 一日～二四日 アニメトイ水彩画展 北総観光連盟
- 二七日～七月二五日 佐原の光景写真展 三軌会
- 七月二六日～八月二日 風鈴展 華遊墨



忠敬橋辺には多数の観光客 5/2

5月の初旬、連休中の伝建地区

町並み案内ガイドに

ガイドディング・レシーバー導入

〈新型コロナウイルス感染対策として〉

衰えぬコロナウイルス

新型コロナウイルスの感染は変異ウイルスであるデルタ株が旧来の株と八割は入れ替わったといわれます。東京では、七月中旬に第四波を上回る千人超の感染者数となり七月十二日から八月二十二日の間、第四回目の緊急事態宣言が発せられました。

そんな中でオリンピックが七月二三日、八月八日、パラリンピックが八月二四日、九月五日まで開かれます。

千葉県でも、まん延防止等重点措置を延長して感染防止の対策に懸命

徐々に回復する 小規模校の町並み案内

コロナウイルスの感染拡大によってゼロまで激減していた小学生の町並み案内も、小規模な学校が主ですが、少しずつ回復の兆しが見えています。



香取街道に並ぶ千葉県有形文化財を少数の小学生に説明



伊能家旧宅では静かな環境の中で、少人数の小学生に説明

残念ながら、伊能忠敬記念館と山車会館が入場者数と時間制限を設けているので、団体の入場が不可能で、少人数での見学しかできませんが、オリンピック後には、以前のように沢山の学校が私達の町並み案内を利用してくれることが期待されます。

無線で案内の声を送信

私達の町並み案内も感染防止に努力していますが、今年度に入り「ガイドディング・レシーバー」が導入されました。マスクをしていては声が聞こえにくいので、感染予防と案内の利便性を考えた対策です。

ガイドが持っている親機からの音を各お客様が持っている子機が受信し、イヤホンで聞き取ります。聴取可能範囲は最大100m位で、子機に付いたボリュームで音量調整出来ます。

現在まで五、六回の利用がありました。予約を頂く折、ぜひ利用したいという申し出もあり反響は悪くありません。イヤホンは感染予防のために有料で持ち帰っていただいています。

伊能測量最大の危機?!

「糸魚川事件」の背景を探る(上)

第四次測量中の享和三年(二八〇三)八月二日から、忠敬は体調の悪化が続いた。そんな中、「糸魚川事件」が起こった。

トラブルは三点

① 止宿の変更に関わる件。(忠敬はやむを得ないとして納得)。

② 姫川河口測量の件。(忠敬は大いに憤慨したが藩役所は「打ち捨ておけ」と指図)。

③ 役人などの測量の協力に関わる件。(迎え、見送り、先払、付添に役人などの姿がなかった。忠敬は粗末な取り扱いだと憤慨した)。

「伊能測量存亡の最大の危機」の中心は姫川河口の測量をめぐる件である。

前日、測量手配を依頼した所、町役人は「姫川は大河であり、危険であるから上流の街道筋を測ってくれ」と、船を出すのを断った。

ところが翌日に忠敬らが行って確認した所、川幅は十間ほどしかなく、簡単に測ることが出来た。この年は雨が少なく、諸河川は水が少なく、



測量隊には都合良かった。忠敬は、偽った証言で測量に差しわりを生じさせたとして役人たちを呼び出して咎め、藩の役人にも伝えておくように言った。これが事件の発端である。

糸魚川藩とは

この時の糸魚川藩支配は、松平日向守(直紹・なおつぐ)。石高一万石、江戸に定住。役職は大坂御定番。日光祭礼奉行、田安御門番、半蔵門番などを歴任しており、そのために出費も激しく、藩財政は悪化していた。

糸魚川陣屋で政務をとることもなく、政治的にも不安定だった。ちなみに、陣屋には那代以下の士分格は九名、手代・足軽一六人、仲間十人という陣容で、かなり小規模なものだった。

忠敬は、町役人の詫びを受け入れ、町役人たちの心得違いのことは用捨容赦とし、相済み落着となつたはずであった。

・参考文献は後記。(平澤節夫)